

かけはし



新年のご挨拶

新年、明けましておめでとうございます。

昨年5月より新型コロナウイルス感染症が2類から5類に変更され、コロナ禍前の日常に戻りつつあります。

本院は新型コロナウイルス感染症の中等症から重症の患者さんを受け入れ、ECMO（エクモ）治療やコロナ陽性患者の全身麻酔手術を行いうる大分県唯一の病院として役割を果たしてきました。

また本院職員は言うまでもありませんが、患者さんや付き添いの方も感染防御に努めて頂いたおかげで、本院は院内感染を最小限に抑えることができ、病院機能も一時的に制限したことはあるものの、重要な医療は継続することができました。

皆様にいろいろとご不便をおかけしたことを、この場をお借りしてお詫び申し上げるとともに、皆様のご理解とご協力に深く感謝申し上げます。



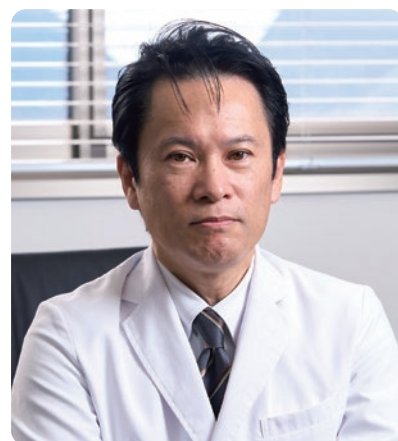
大分大学医学部附属病院
病院長 三股 浩光

さて、本年4月より医師の働き方改革が始まります。これまで日本の医療は医師の犠牲的精神に負うところが多く、特に大学病院の若手医師は長時間労働や休日の出勤に加えて、研究や教育の負担がかかり、30%の医師が過労死レベルにあるとされていました。過労は医師の判断力を鈍らせ、単純ミスを誘発するため、医療安全においても重大な問題とされています。このような事情から医師の働き方改革が法律で定められました。病状や検査、手術等の説明はできる限り平日の勤務時間内に行うこと、病状が落ち着いた場合は近隣のかかりつけ医等に逆紹介すること、従来の一入主治医制から基本的にチーム制に変更すること等、いろいろな対応が全国で進められています。本院も同様の対応を進めていますので、患者さんやご家族の皆様には何卒ご理解、ご協力をお願い申し上げます。

最後に、外来の待ち時間の長さや外来ホールの混雑で、長らく皆様にご不便をおかけしてきましたが、本年4月より外来診療の支援アプリを導入する予定です。診察の順番をスマホで案内できるため、待合室にいなくてもスマホに表示されるようになります。また後払いシステムによって、支払で待つ必要もなくなります。今後もさらにデジタル化を進めて、皆様により良い診療を提供できるよう努力して参ります。本年も大分大学医学部附属病院をよろしく願い申し上げます。

総合外科・地域連携学講座 教授 就任のご挨拶

大分大学医学部
総合外科・地域連携学講座 教授 うえだ よしたけ
上田 貴威



令和5年12月1日付で、総合外科・地域連携学講座の教授に就任いたしました。私は、大分生まれの大分育ちです。1997年(平成9年)に佐賀医科大学医学部を卒業後、すぐに大分に戻り、当時の大分医科大学外科学講座第一(現 消化器・小児外科学講座)に入局しました。その後、大分県立病院や国立大分病院(現 大分医療センター)などにて外科医としての研鑽を積み、大分県下の様々な地域医療機関において外科医療に従事してきました。2011年より大学病院に消化器外科医として勤務し、胃がんや大腸がんに対する腹腔鏡下手術をはじめとする低侵襲手術の臨床・研究・教育に取り組んで参りました。

私たちの講座は、2010年に設立された地域医療学センター外科分野から、2017年に新しく講座化されました。本講座は、大きく2つの役割を担っています。1つ目は、大分大学医学部の「地域枠」入学生への教育と卒業医師へのキャリア支援です。地域医療学センター内科分野の先生方および大分県福祉保健部医療政策課の皆様と協力・連携し、「地域枠」学生に対して入学時から卒業後に至るまで、地域医療に関する教育や進路・キャリア形成の相談などを行い、大分県の地域医療を担う人材の育成に努めています。2つ目は、大分県の地域外科医療に関する課題の調査とそれに對

する方策の立案・提示です。これまでに25種の調査を行い、国内の主要な学会等にてその調査結果やその対策案を報告・発表してきました。日本全体では様々な対策にも関わらず、外科医の減少傾向が続いています。一方、大分県では外科医は増えてきてはいるものの、外科医の地域偏在や適正な数の配置などの課題が残っています。さらに、2024年度から本格的に開始される「医師の働き方改革」は、地域の外科医療にも大きな影響を及ぼすと危惧されています。これらの課題に対して、これまで以上に大分大学の外科学講座、地域医療機関、そして大分県自治体が三位一体となって取り組むべきと考えています。

これからも大分県民の皆様の健康と安心を守るべく、大分の地域医療で活躍する人材の育成と地域外科医療の活性化に取り組んで参ります。ご指導、ご支援のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。



地域枠学生との意見交換会

放射線科 ～「放射線科」って何？何をしてるの？～

放射線科という診療科は一般の方にはあまりなじみのない診療科です。放射線科医というとレントゲンやCTを撮るのが仕事だと思っている方も多いでしょう。実際はそうではなくて、医療で使用する放射線（X線やγ線など）を利用して病気を見つけたり、病気の治療をしているのが私達放射線科医です。放射線科医が行っていることは以下の3つに分かれています。

① 放射線診断

現在の医療では病気の診断をするうえでCTやMRIなどの画像診断は必要不可欠です。放射線科医は色々な診療科の主治医から依頼されて撮影されたCTやMRIなどを詳細に見てどこにどんな異常があるかをレポートに書いて主治医に報告しています。主治医はそのレポートを見て、他の色々な検査結果とあわせて患者さんの診断や治療をしています。



放射線科医が画像を見て、レポートを書いて主治医へ報告します



放射線を照射してがんを治療します

② 放射線治療

放射線治療はがんの三大治療の一つです。がん細胞が正常の細胞よりも放射線に弱いという性質を利用して、がん細胞に放射線を照射することでがんを小さくしたり、がんの再発を防いだり、がんの痛みをやわらげたりしています。通常は体の外から放射線を照射しますが、体の中から照射することもあります。放射線科医が患者さんごとに照射の方法や放射線量などを細かく決めて、治療の計画を立てています。

③ 画像下治療（IVR）

X線を使用すると体の中を透かして見ることができます。それを利用して体の中をX線で見ながらカテーテルという細い管や針を血管や臓器の中に入れて治療する方法をIVRといいます。一番の利点はカテーテルや針を入れる小さなキズだけで治療ができるので、体への負担が少ないという点です。交通外傷などで出血が止まらないときに血管の中から血を止めたり、動脈瘤やがんなど幅広い病気の治療をIVRで行っています。



X線を使用しながら、カテーテルを体の中に入れて治療しています

放射線科医はいろいろな診療科のドクターや医療スタッフと協力して患者さんの診療をしています。もし私達の診療を希望される場合はまずは主治医の先生にご相談ください。

「てんかん支援拠点病院」に指定されました

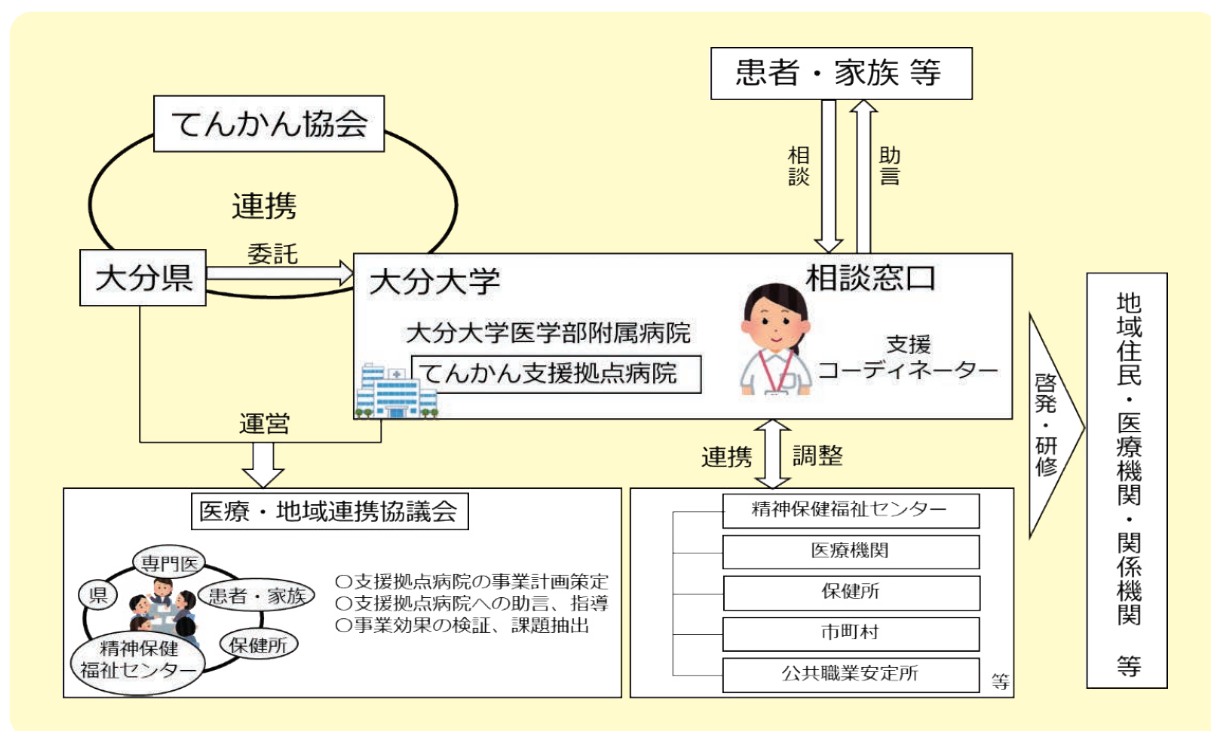
大分大学医学部附属病院は令和5年10月18日に「てんかん支援拠点病院」に指定されました。厚生労働省が平成27年度に開始した「てんかん地域診療連携整備事業」において、てんかん診療を専門とする医師が在籍し、MRIやビデオ脳波などの必要な検査が可能であり、手術などの要件を満たす医療機関から都道府県が指定します。当院は全国で29番目、大分県内では唯一の拠点です。

てんかんとは、「てんかん発作」をくりかえす病気です。脳にある神経細胞の異常な電気活動により引き起こされ、さまざまな症状を生じます。脳が発生する過程で生じた構造の異常、代謝異常、遺伝子の異常など出生時からの原因だけではなく、頭部外傷、中枢神経感染症、脳卒中、認知症等の後天的な脳の疾患も原因となります。てんかんの有病率は100人に1人とされており、大分県内では1万人ほどいると推測され、乳幼児から高齢者までのどの年齢でも発症し、誰もがかかる可能性のある病気です。

約7割のてんかん患者さんは、お薬の内服で発作がコントロールされ、通常通りの生活ができますが、お薬を使っても発作がおさまらない患者さんには、外科的治療を考慮することもあります。発作を起こす元になっている部分を見つけ出して切除する焦点切除術や、発作の回数や大きさを緩和するための脳梁離断術、迷走神経刺激装置植え込み術などがあります。

「てんかん支援拠点病院」では医療系国家資格を有するコーディネーターにより、患者さん、ご家族への専門的な相談支援を行います。また、他の医療機関や自治体、関係機関との連携や、患者さん、ご家族、地域住民や医療従事者への教育・啓発活動も行っています。

てんかんでは、発作以外にも原因疾患やてんかん性活動による慢性病態を合併していることも多く、また病気への偏見や差別といった社会問題も少なくありません。当事業では、多職種・地域連携により患者さんとそのご家族を心理社会面から支援することも重要な役割だと考えています。専門病院だけでなく、かかりつけ医や、さまざまな社会資源との連携を行っていく予定です。



電話相談窓口 050-3613-1679（水・木・金曜日/10時～15時）

※業務の都合上、一部対応できない時間があります。詳細日程については、大分県ホームページ内、または大分県てんかん支援拠点病院のInstagramでもご案内しています。

<https://www.instagram.com/oita22023>

（文責：脳神経外科 松田 浩幸）



「公認心理師って どんな仕事？」

皆さんは、公認心理師という職種をご存知でしょうか？

もしかするとニュースなどで「災害時の心のケアでこころの専門家を派遣」といったトピックスを耳にしたことがあるかもしれません。

いま、日本には、「こころの専門家」の資格として、大きく2つあります。ひとつは1998年に成立した「臨床心理士」という5年ごとの更新制の認定資格（全国4万人：県内300人）、もうひとつは2017年に誕生した国内で初となる心理職の国家資格「公認心理師」（全国7万人：県内500人）です。

諸外国ではカウンセリングや心理アセスメントの専門家として心理職は国家資格として独立していることが多いのですが、日本ではそれが立ち後れていました。

ようやく国家資格が成立したことで2018年には医療制度の中にも、「公認心理師」という名称が登場するようになりました。

こうした時代の流れの中、当院にも病院雇用として常勤の公認心理師が2022年に総合患者支援センターに初めて配置されました。現在2名体制になり、2名ともこの2つの資格を持ち、主治医の指示のもと、ひとつの診療科にとどまらず様々な診療科（入院・外来）に出向き、多職種と連携しながら、患者さんやご家族の支援（カウンセリングや心理検査）をおこなっています。

具体的には、①チーム医療のメンバーとしての活動（緩和ケア、精神科リエゾン）②がんの方や家族へのカウンセリング③要望をいただいた各診療科（7診療科）での支援などです。

とはいえ、特に身体の病気の場合、身体の病気なのにどうして心のこと？と思われるかもしれません。しかし、古来より心理面と身体面は密接に連動していると言われ、心の痛みが身体の痛みを増してし

まうこともあるのです。また、唐突に病を抱えるということ、病を抱えて生きていくこと自体、身体だけでなく心にもとても大きな負担がかかるものです。

私たちは、微力ながら、十分な時間をとって、ゆっくり、患者さんやご家族のお話をうかがいます。そのことで、少しでも不安が軽減され、困っていることが整頓され、治療に向かえたり、自分らしくこれからを歩めるようにサポートできればと考えています。

まだ支援を開始して2年目であり、2名体制のためできる範囲は限られていますが、伴走できる相手のひとりでありたいと思っています。

関心のある方は主治医までご相談ください。

（文責：総合患者支援センター 姫嶋 詩絵）



当院の公認心理師



ことばだけでなく、このような箱庭を使って気持ちの表出をお手伝いすることもあります

あなたの声
を
お待ちしております

良い病院になるために

患者さんの声は、要約して載せておりますので
ご了承ください。



声

CT室へ検査後に身なりを整えるための鏡を付けて頂きたい。

回答

この度はご意見いただきありがとうございます。
患者さんへの配慮が不足しており、ご不便な状況であったこととお詫
びします。ご指摘を受け、CT検査室内に鏡を設置しました。必要と
される患者さんに広く活用して頂ければ幸いです。今回のご指摘を機
に、他の検査室にも鏡の設置を検討します。



声

立体駐車場での他の患者さんから、車用のスロープを指さして、
「あそこから歩いて降りるのでしょうか？」と聞かれました。
エレベーターや階段のところに大きく看板を付けないと、歩
いて降りようとする人がいて危険かもしれません。



回答

貴重なご意見ありがとうございます。確認したところ、立体駐車場内にエレベーターや階段の
案内が少なく、駐車場の通路が分かりづらかったため、エレベーターや階段の場所がわかるよ
う案内板を増設しました。また、車用のスロープにも、歩行者の通行を禁止する案内板を設置
しました。

混雑時には、立体駐車場内に整理員を配置する等努めておりますが、ご利用の際には駐車場の
案内等に従い、安全にご留意いただきますようご協力のほどよろしくお願いします。

＼ 感謝の声 /

声

新卒採用バッチを付けたスタッフの方が、一番親身に対応して下さい、頑張っている姿をみて
いると自分も頑張ろうという気持ちにさせてくれました。「ありがとうございます。」といつも
言ってくれましたが、こちらのほうが「ありがとう」と伝えたく書きました。褒めてあげて下
さい。これからも初心を忘れず頑張ってください。陰ながら応援しております。

回答

この度は、このような大変嬉しい「声」をいただきありがとうございます。
いつまでも初心を忘れず、治療を受けられる皆様に寄り添い、共に歩み続
けるために尽力して参ります。



(文責：病院長)



大分大学医学部附属病院

〒879-5593 由布市挾間町医大ヶ丘1丁目1番地 TEL 097-549-4411(代)
大分大学医学部附属病院ホームページ <http://www.med.oita-u.ac.jp/hospital/index.html>

これまでの「かけはし」は、医学部附属病院ホームページからご覧いただけます。

